

## 令和4事業年度決算について

本学においては、令和5年6月26日に令和4事業年度の財務諸表を文部科学大臣に提出し、同年8月31日付で文部科学大臣の承認を受けました。この財務諸表は、「国立大学法人会計基準」及び「国立大学法人会計基準注解」並びに「国立大学法人会計基準」及び「国立大学法人会計基準注解」に関する実務指針に基づき作成したものであり、広く国民の皆様には本学の財務状況等をお伝えするため、ここに公表いたします。

財務状況の経年の推移等をまとめた「財務レポート2023」（仮題）についても、後日、作成することとしておりますので、併せてご覧ください。

### 財務状況

(1) 本事業年度末における資産は16,768百万円、負債は3,770百万円、純資産は12,998百万円となっております。（貸借対照表参照）

資産については、前年度に対し、現金及び預金残高の増加や、減価償却引当特定資産への繰入等による増加はあったものの、減価償却による減少等により、163百万円の減となっております。

負債については、前年度に対し、運営費交付金債務や前受共同研究費等の増加はあったものの、国立大学法人会計基準の改訂に伴う資産見返負債の廃止や、当該事業年度の工事や備品等の未払金の減少等により、2,436百万円の減となっております。

(2) 本事業年度においては、経常費用7,287百万円、経常収益7,509百万円、当期総利益2,687百万円となっております。（損益計算書参照）

経常費用については、前年度に対し、研究経費、受託事業費等の増加等により、404百万円の増となっております。

経常収益については、前年度に対し、資産見返負債の廃止に伴う資産見返負債戻入（経常収益）の減少はあったものの、予算執行額の増加等に伴う運営費交付金収益や受託研究・寄附金等収益等の増加により、261百万円の増となっております。

なお、国立大学法人会計基準の改訂に伴い、令和3年度末の資産見返負債を令和4年度期首に全て収益化し、資産見返負債戻入（臨時利益）に計上したことにより、臨時利益については、前年度比2,340百万円増の2,414百万円となっております。

また、当期総利益のうち現金の裏付けがあり事業の用に供することが可能な額187百万円については、教育研究目的積立金への承認がなされれば、中期計画の剰余金の使途に従って、教育研究の質の向上及び組織運営の改善のために有効に活用する予定です。

国立大学法人の財務運営については、毎年度、運営費交付金の予算が漸減する中、一定の率による削減額を原資として指標評価に基づく傾斜配分が行われる等、厳しい状況下に在りますが、効率的な経営に努めるとともに、教育研究等の充実・発展に邁進する所存ですので、一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年8月

国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学